

会議報告

平成 22 年度動物衛生試験研究推進会議の概要

TAKAHASHI Yuji

企画管理部業務推進室 企画チーム チーム長 高橋 雄治

平成 22 年度動物衛生試験研究推進会議が平成 23 年 2 月 17 日（木）に動物衛生研究所本所講堂において開催されました。参集者所属（人数）は以下の通りです。

外部委員（1；共立製薬）、農林水産省農林水産技術会議事務局（2）、農林水産省経営局（1）、農林水産省消費・安全局（2）、農林水産省動物検疫所（1）、農林水産省動物医薬品検査所（1）、農業・食品産業技術総合研究機構（1）、中央農業総合研究センター（1）、畜産草地研究所（1）、食品総合研究所（1）、東北農業研究センター（1）、近畿中国四国農業研究センター（1）、九州沖縄農業研究センター（1）、農業生物資源研究所（1）、家畜改良センター（1）、農林水産消費安全技術センター（1）、北海道立総合研究機構畜産試験場（1）、栃木県県央家畜保健衛生所（1）、群馬県家畜衛生研究所（1）、岡山県岡山家畜保健衛生所（1）、島根県農林水産部（1）、沖縄県家畜衛生試験場（2）、動物衛生研究所（25）、以上 50 名。

検討議題は以下の通りです。1. 動物衛生研究を巡る情勢、2. 今年度の研究成果、3. 重点研究推進方向、4. 連携・協力に関する事項（他機関からの要望事項）、5. 主要研究成果の検討、評価、採択。

1. 動物衛生研究を巡る情勢

動物衛生研究所企画管理部長から、最近の動物衛生問題と動物衛生研究の取り組みについて説明しました。今年度の特記すべき成果として、平成 22 年 4 月に我が国で 10 年ぶりに発生した口蹄疫への対応、高病原性鳥インフルエンザへの対応、BSE 等プリオン病研究ではプリオン蛋白質の超高感度検

出技術である試験管内プリオン増幅（PMCA）法、ヨーネ病の病態解明とリアルタイム PCR 法や組換え抗原を用いた早期診断法の開発、地方病性牛白血病の新しい診断法、牛アルボウイルス病の分離ウイルス性状解析などが挙げられました。

2. 今年度の研究成果

動物衛生研究所における人獣感染症研究、ウイルス病研究、国際重要感染症研究、プリオン病研究、細菌・寄生虫病研究、ヨーネ病研究、次世代製剤開発、環境・常在疾病研究、疫学研究、生産病研究、安全性研究について、各研究チーム長が第 2 期中期計画、本年度の計画・成果およびそれぞれの中課題を代表する成果を説明し、討論が行われました。また、北海道立総合研究機構畜産試験場、栃木県県央家畜保健衛生所、群馬県家畜衛生研究所、岡山県岡山家畜保健衛生所、島根県家畜病性鑑定室、沖縄県家畜衛生試験場の家畜衛生担当者が各所の平成 22 年度計画、成果、今後の問題点と次年度以降の計画について説明し、動物衛生試験研究における推進方向が討議されました。

3. 動物衛生研究の重点推進方向

次年度以降の動物衛生研究推進方向として、第 3 期中期計画策定に向けた方向性が企画管理部長から説明され、討論が行われました。

4. 連携・協力に関する事項（他機関からの要望事項）

農水省消費・安全局から出された「感染症対策等の域内協力体制確立に向けた動物用医薬品開発・供給体制整備事業への協力」、「複数の抗原遺伝子を

会議報告

導入できる多価ワクチンベクターの開発」、「薬剤耐性菌の全国調査に関するプロトコール開発への協力継続」、「動物用インフルエンザワクチン株の迅速変更システムへの協力」に関する要望事項に対し、動物衛生研究所からの対応方針を示しました。

5. 主要研究成果の検討、評価、採択

動物衛生試験研究分野の主要研究成果について、担当研究チーム長から31課題の概要を報告し、質疑と評価が行われました。一部の課題についてはタイトル、本文等の表現の議論がありましたが、一部

修正の上、全てを採択し、総括推進会議に提案することになりました。

外部委員から動物衛生分野の研究推進について述べられた意見は次の通りです。

動物衛生研究所は家畜保健衛生所の専門家2,200名の技術的なヘッドであり外から見ていて非常に頼もしく思えた。世界的に見ても先端技術を出している。感じたことは個々の研究成果はすばらしいものであるが、研究所としては課題選定時に選択と集中をし、目玉を考えるべきだ。

TOPICS

SAT10周年記念 TX テクノロジー・ショーケース in つくば

「TX テクノロジー・ショーケース in つくば」は、つくば市の研究機関を中心に、研究者相互の交流や研究者・企業・行政の横断的交流を促進すること、新たな発想に基づく研究やベンチャー事業の契機となる場を提供すること、そして幅広い分野の研究者・企業関係者に新たな出会いとひらめきの場を提供することを目的とする研究展示会です。

今回はつくばサイエンス・アカデミー (SAT) 10周年記念と銘打ち、平成22年12月24、25日につくば国際会議場にて開催され、物質・材料/ナノテクノロジー、農林水産/食品、土木/防災など幅広い分野から119件の研究が発表されました。筆者は「高病原性鳥インフルエンザに対する経鼻ワクチンの開発」と題して、最近の研究成果を発表しました。また、植物にウイルス病に対する抵抗性

を付与する技術など、日頃あまり知ることのない他の分野の研究成果に接し、今後の研究に多くの示唆を得ることができました。

ところで、今回も「高校生科学研究発表会」が併催され、科学部の高校生とも交流する機会があり

ました。彼らや彼女らが10年以内に確実に研究の最前線にいることを想像すると、研究の世界の厳しさに改めて身が引き締まる思いがしました。

(ウイルス・疫学研究領域
主任研究員 彦野弘一)

